

商 況

(日本製鐵販賣旬報第 111~113 號より抜萃)

昭和 13 年 4 月中鐵鋼關係日誌

- 1 日 大阪伸鐵工業組合の引受問屋組合(假稱)創立總會開催、加盟問屋は大阪鋼材、千葉、吉村、井上(光)、山本(東)、森下、小倉、藤井、田中(平)、山本(貞)、龜田、羽野、塚田、北島、井村、小島。理事長は伊藤大阪鋼材常務と決定。引受は 4 月物第 2 回分より開始す。
- 特殊鋼協議會發會式開催 加盟會社は日本特殊製鋼、特殊製鋼、日立製作(安木製鋼所)、大同電氣製鋼、日本高周波重工、東京鋼材(廣田製鋼所)、理研特殊製鋼(柏崎工場)、日本製鋼所、日本火工、日本電解製鐵、日本金屬工業、三菱重工業、日本製鐵(八幡製鐵所)、日曹製鋼(米子工場)、住友金屬、川崎造船、神戸製鋼、日本砂鐵工業、日本鋼管(新湊電氣製鐵所)、小松製作、豊田自動車。
- 米國 1 級屑鐵相場は次の如し。
ピッツバーク消費者渡 13 弗 25~13 弗 75 (3 月 25 日入電 13 弗 50~13 弗 75) 輸出向紐育解渡 12 弗 50 (3 月 25 日入電 13 弗 50)。
- 2 日 東京卸賣物價は重要商品 45 種の 3 月末の地位を月初めに比較すると騰貴せるもの 19, 下落せるもの 15, 大體保合 11 品
- 5 日 社團法人鐵鋼聯盟創立總會開催 加盟員は日本製鐵、日本製鋼、日本鋼管、吾孺製鋼、東京鋼材、日曹製鋼、鶴見製鋼、住友金屬、中山製鋼、大阪製鋼、大和製鋼、淀川製鋼、富永鋼業、尼ヶ崎製鋼、大阪製鉄、日本亞鉛鐵、神戸製鋼、川崎造船、徳山鐵板、小倉製鋼、東海鋼業、日本鋼業、大倉鐵業、昭和製鋼の 24 社、會長平生鈺三郎氏、副會長中井勵作氏、白石元治郎氏、小日山直登氏と決定。
- 商工省では可及的急速に配給統制を行ふ一助として來る 15 日迄に工業組合設立手續を完了せるものには優先的配給を勸告すると。
- 商工省では鐵鋼統制協議會より割當を受けた民間統制團體の再割當の公正且つ正當を期する爲道、府、縣當局をして監督に當らしむと。
- 外國爲替取引に對する日銀及大藏當局の統制策は一段と強化し對英爲替相場の細目協定成り本日より實施することとなつた。
- 大藏省は省令第 12 號公布施行するに當り各爲替取扱銀行に這般成立したる對英及對米爲替相場細目協定を嚴守すること。其他の各地向け爲替相場に就ても右趣旨に基き合理的相場を建てることの 2 條件を附して包括的爲替取引許可を與ふ。
- 米國上院陸軍委員會は屑鐵其他軍需鐵鋼材の輸出許可制に關し公聽會を開くことに決定。
- 6 日 製鋼原料懇話會では 4 月中内地屑鐵購入建値は据置(レール特級 102 圓, 1 級 97 圓, 2 級 87 圓, 3 級 75 圓)。
- 紐育鐵鋼市況は注文が前週稍々増加したが今週はそれを維持するに至らずその結果製鋼作業率は 32.6% にして 3 分

- 1 厘方低下す。屑鐵も鐵鋼界の情勢不透明を映して相場は引續き低落し、輸出業者は次の如く賣値を大幅引下げた。(4 月 1 日入電參照)
- 1 級屑鐵ピッツバーク消費者渡 12 弗 75, 輸出向 11 弗 50 紐育解渡 12 弗, 銑鐵 3 月中の生産高は 2 月と同額なるも本年 1~4 半期の生産高は前年同期の半以下である。
- 中山製鋼所は重役會を開き前期利益金處分案 2 分増配(年 1 割 2 分)を決定。
- 米國政府は獨逸合邦を承認しウィーンに於る公使館を廢止して總領事館を設置する旨聲明す。
- 7 日 東京に於て全國鋼材問屋組合合同常務理事會開催 棒、形鋼、鋼板の東京、大阪、名古屋、若門の問屋組合選定の特約店の詮衡を行ふ。
- 商工省は鐵鋼配給統制に就て次の如き通牒を各地方廳に發す。即ち材料鐵鋼の消費割當は原則として第 1 段の工程に屬する工業に付てのみ行ひ古鐵に付ては差當り消費數量の割當を行はざるも新銑等に就ては古銑の消費實績を參酌す、割當は年を 4 半期に分ち數量に就ては從來の鋼材銑鐵の消費數量(實績)並に設備能力製作品種の重要性等に據る
- 棒鋼共販理事會開催 建値は前回通り据置。
- 8 日 形鋼、鋼板共販理事會開催 建値は前回通り据置。
- 日支經濟提携による産業開發の第 1 事業として華中鐵鑛股份有限公司の創立總會開催さる、社長、副社長は當分の中缺員とし常務取締役に磯谷光享(日鐵)、取締役白石元治郎(日本鋼管)、袁乃寬(中日實業總裁)、監查役盛恩頤(漢冶萍煤鐵廠總經理)、小池寛(日鐵)の諸氏と決定。
- ブルム佛内閣の財政全權案が否決され總辭職す。
- 日本鋼材聯合會理事會開催 形鋼、棒鋼、鋼板の 4~6 月積の各社別生産數量は 12 年度の各社實績(商工省調)を基準とし左の如き條項によるものと決定す。
- 1. 増産品種と減産品種とを併せ生産する會社に對しては減産品種のみを生産する會社より減産率を幾分加重す。1. 新規増設工場中増産品種に相當するものは出来る丈は割當つ
- 1. 幾分生産費に付て相違あるも設備の轉用も考慮に入る。
- 1. 各社の總生産割當額に付て出来る丈け數量の減産とならぬ様調節す。特殊のものにして轉換出來ざるものに付ては此限に在らず。
- 9 日 スチール會社發表、3 月中の同社鋼材引渡高は 572,000t で前月より 97,000t の増。
- 10 日 獨逸合併の國民投票は非常なる好成績を以て合併に賛成と決す。

4 月上旬爲替相場

月	日	4.1	2	4	5	6	7	8	9
對英	對	1/2-0	"	"	"	"	"	"	"
對米	對	28%	"	"	"	"	"	"	"

1.2 日 中華民國臨時政府駐日辦事處開設さる。

○最近軟化の傾向を示してゐた米國屑鐵相場は又復低落し、ピッツバーク渡1級屑鐵相場はも當12弗50仙と25仙方引弛む。(7日12弗75仙)

13日 薄板共販理事會では各社の、4~6月生産數量の割當を決定し、指定商手数料を7厘、指定問屋口錢を最高5分に決定す
○ソ聯は駐日領事館の中神戸、小樽、大連を來る15日より閉鎖に決したるを以て我駐ソ領事館も同數にされ度しとの要求ありたり。

○佛領印度支那政府は鐵資材蓄積の爲鐵及屑鐵の輸出を1938年3月23日以降禁止すと。

14日 ルーズヴェルト米大統領は深刻化して行く不況對策として議會に特別教書を送り失業救濟事業費、資源涵養事業資金とし總額2,950,000,000弗(邦貨10,000,000,000圓)に上る公共事業計畫につき議會の支持を要請す。

○山東省興中炭は製鐵用コークス炭として日本鋼管と興中公司との間に輸入交渉なり近く輸入再開の運びに至る。

○今週の米國製鋼作業率は32.7%と前週より0.1%の騰貴

○本日紐育入電の外註値段次の如し。

	Cif price per 2,240 lbs	河岸着 per 1,000 kgs
M. S. Bars (Base size)	\$ 52.41	¥ 186.35
" Angle (")	56.34	200.45
" I. Beams (")	52.19	185.71
" Channels (")	53.20	189.25
" Plates (")	50.62	181.42
Sheet Bars (Common size)	38.35	137.24
Billets (")	38.35	137.24
Ingot (")	36.35	130.25

15日 英國商務省發表 3月中英國より日本へ輸出したブリキ626tにして1月以降累計は966t。

○本日の米國屑鐵相場左の如し。

1級屑鐵	ピッツバーク消費者渡	12弗50~13弗
"	輸出向紐育船渡	11弗50
レール屑	輸出向ボストン貨車渡	12弗50

○4月分(本日現在)東京小賣物價指數は197.6で前月より2分5厘方騰貴を示す、調査品目中騰貴せるもの27、低落9、保合64

○政府は戰時態勢下に於る軍需工業を中心とする重工業資材の需給の不均衡に因る不足資源の補給に就き科學的調査をなすと共に代用品の研究の爲總理大臣の諮問機關として内閣に科學審議會を設置する事に決し其官制發表さる。

16日 日鐵は大分炭礦を3,000,000圓で嘉穂鐵業に譲渡し一方嘉穂鐵業の株式6,000,000株中3,000,000株を買收し同鐵業を管理することに決定、之に伴ふ重役の移動は會長松本健次郎、常務松村茂、取締役中野次郎、櫻井英夫、長崎榮十郎、吉田健三郎、橋本芳雄、室木隆三郎、監査役北村保太郎、松本幹一郎、相談役石渡信太郎の諸氏と決定す。

17日 3月の生計費指數は203.2で2月より1.2%の續騰、昨年12月に比し2.9%、前年同期に比し7.2%の昂騰を示す。

○ローマに於て地中海、紅海、エチオピア、バレスチナ等の重要問題の取極を包含する英伊協定正式調印さる。

○自治制發布五十周年記念祝典は天皇陛下の御親臨を仰ぎ盛大に行はる。

19日 日滿商事では13年度(4月開期)の滿洲に於る鋼材配給額につき約920,000tと査定した。(昨年400,000t)其供給

方針は昭和製鋼、住友鋼管、鞍山鋼材、中山鋼業等より約320,000t、日本より250,000t乃至350,000tの輸入を豫定、不足量は獨、米よりの輸入によること。

20日 政府では近く實施豫定の鐵鋼配給統制に關し來る28日迄に各關係工場に對し従業員及び設備、昨年中の工場生産品種別數量、金額、昨年中下請せしめたる製品の種類、支給したる鐵鋼材の數量並びに工場名、所在地等につき各道府縣廳宛調査報告を提出せしむと。

4月中旬爲替相場

月	日	4.11	12	13	14	15	16	18	19	20
對英	對	1/2-0	"	"	"	"	"	"	"	"
對米	對	28-1/8	29-0	"	29-1/8	29-1/8	"	29-3/8	"	29-1/8

21日 今週の米國製鋼作業率は全能力の32.4%で前週より0.3%の減。

○米國の1級屑鐵相場はピッツバーク消費者渡12弗~12弗50仙。

22日 2月の全國貨幣勞働賃銀指數即ち名目賃銀指數は282.6で前月より7厘の騰貴、實質賃銀指數は生計費の騰貴の爲140.7と前月より3厘低落す。

○棒鋼共販理事會開催、建値は前回通り。

23日 製鋼原料懇話會では5月中屑鐵購入値段は特級品102圓、1級品97圓、2級品87圓、3級品75圓据置と決定す。

○本日入電の米國新舊輸出シンデケート値段次の如し。

	舊シンデケート Cif Japan (100 lbs)	河岸着 (K. T.)	新シンデケート Cif Japan (100 lbs)	河岸着 (K. T.)
Joist	\$ 2.33	¥ 184.03	\$ 2.26	¥ 178.18
Channel	2.375	187.53	2.26	178.18
Angle (Z Bar を含む)	2.515	198.43	2.26	178.18
Bar	2.34	184.81	2.34	184.81
Plate	2.26	178.58	2.26	178.18

Exchangerate @ \$ 29. Landing ¥ 2.56 Interest 1 1/2%

○形鋼及鋼板共販理事會開催 6,7月積建値は据置と決定。

24日 北京西郊石景山製鐵所は日鐵が新なる資本金2,000,000圓を入れ、コークス工場を増設し銑鋼一貫作業を行ふ事に決定、修設起工式を行ふ。

○昨年7月を100とする東京市4月中勞働者生計費指數は108.3で3月より1分5厘の上昇、給料生活者のそれは107.5で1分4厘の上昇。

25日 鋼管共販理事會開催建値は据置。

○商工省は銑鐵鑄物製造制限規則を公布 5月15日より施行す。之が禁制を受ける品目は總數47種に上る。

○日、滿、鮮及支那の日本人關係の開瀾炭需要者への一手販賣を行ふべく開瀾炭販賣株式會社(資本金2,000,000圓2分1拂込)の創立總會開催。株主日鐵6割、日本鋼管、東京瓦斯各1割、大阪瓦斯、日本化成各5分、城崎壽々(舊開平炭販賣會社代表)1割。社長中松真郷(日鐵)、常務笠原寛美(日鐵)、取締役白石元治郎(鋼管)、都留信郎(東京瓦斯)、渡邊義介、長崎榮十郎、吉田健三郎(以上日鐵)、監査役飯田九州雄(日鐵)、山田三次郎(日本化成)、片岡直方(大阪瓦斯)の諸氏と決定。

26日 歐洲鋼材相場は不變乍大口引合に對して輸出シンデケートは特別値段として棒鋼、山形鋼は内地渡160圓前後にて商談成立すと。

27日 大阪伸鐵5月第1回賣出値段は全部据置。

- 棒、形、板の3鋼材共販の全國 '54 指定問屋を以て全國鋼材商業組合を結成、理事長は林甚之丞氏。
- 八幡製鐵所 1,000t 熔鐵爐火入式舉行さる。
- 鋼板共販指定の 13 シーヤ業者による日本第1種シャリング工業組合の創立總會を行ふ理事長市原伊三郎氏と決定。
- 28日 今週の米國製鋼作業率は 32% と前週より 0.4% の績減を示す。
- 米國の1級屑鐵ピツパーク消費者渡の相場は 11 弗 50 仙 ~ 12 弗、同輸出向紐育解渡 11 弗 50 仙、レール屑輸出向ボストン貨車渡 10 弗 50 仙。
- 大和製鋼株式會社の 50t 平爐初出鋼を見る。
- 本日倫敦よりの入電によれば (爲替 \$ 28%)

	per 2,240 lbs Cifprice	per 1,000 kgs 河岸着
Cleveland No. 3 Pig Iron	£ 6-18-0	¥ 120-13
M. S. Bar	10- 3-0	173-83
M. S. Angles	10- 3-0	173-83
M. S. I. Beams	9-14-0	169-07
M. S. Channels	9-14-0	169-07
M. S. Plates	\$ 48-00	168-66
British Black Sheets	£ 19- 5-0	332-63

- 29日 獨逸鐵鋼協會發表 3月中の銑鐵生産高 (單位 1,000t) 1,522 (2月 1,349) 同鋼は 1,945 (2月 1,770)
- 米國商務省發表 3月末銑鐵輸出高 23,000t, 同屑鐵 339,000t
- 30日 東京卸賣物價は重要商品 45 種目の 4月末日の地位を 3月末に比較すると騰貴せるもの 17品, 下落せるもの 15品, 保合のもの 15品。
- 北支那開發並に中支那振興株式會社の設立委員長は郷誠之助男と決定。
- 支那方面艦隊司令長官は及川中將に更迭を見る。

4月下旬爲替相場

月 日	4 20	21	22	23	25	27	28	30
對 英	1/2-0	"	"	"	"	"	"	"
對 米	29-1/8	29-1/8	"	"	"	"	"	"

大陸鐵鋼情況

3月10日以降は國際政局の極度に緊張した週間であつた。埃太利に起た問題の爲國際證券市場は暗澹たる數日を送り、半ば恐慌状態に陥入てゐた。諸種のニュースが流布された。軍備の急進展、大增税、スペインの内亂に佛蘭西が干涉する等々であつたが、此の間に在て鐵鋼市場は割合に落ち着きを示してゐた。

カルテルの規約更改問題も、獨逸間に發生せる新事態に依り、複雑性を増すものと見られてゐる。カルテルが過去に於て幾多の難問を次ぎ次ぎと解結し來た事實に鑑みれば、此の新事態の持つ重要性も勿論過大視するの要は無いが、とは云へ見逃し難い問題である。

獨逸の合邦に依り埃太利鐵鋼業は獨逸鐵鋼シンデケートの傘下に置かれる事とならう。否、既に組織下に在るとも見られる。

右の結果獨逸は埃太利の過去の輸出高丈、輸出クォータの増加をカルテルに要求するであらう。埃太利の鐵鋼輸出は次の如くである。

埃太利鐵鋼輸出高 (單位 t)

年次	總計 (屑を含む)	半製品	棒、山	鋼板	線材	軌條類
1927	321,388	31,277	70,542	16,322	17,730	1,758
1929	218,574	17,491	52,725	11,340	9,257	7,575
1936	146,465	33,584	29,803	13,490	6,657	2,771
1937	272,590	64,411	65,525	26,160	11,275	7,712

其處で白耳義の輸出クォータ増加要求は新たな障害に打かる譯である。

白耳義の2大會社がクォータの増加を強硬に要求してゐる事は隠れも無き事であるが、其他にも割當の追加及新規割當を要求してゐる會社が多々あり、斯うした諸問題の爲獨逸、佛蘭西、ルクセンブルグがカルテル再組織に原則的に賛成してゐるにも不拘、獨り白耳義のみ了解を與へ得ないのである。尤も獨逸の賛成も獨逸問題發生以前の事ではあつた。

カルテルの規約更改も存續期間を從來の如く5ケ年とせず、1938年7月より1940年6月末迄の2ケ年とすれば、案外簡単に進行するのではあるまいか。獨逸のシンデケートも1940年は更改期となるのである。

兎に角全面的了解が急速に爲される事は、大陸鐵鋼市場は勿論全輸出貿易に迄有利なる結果を齎す事とならう。

白耳義鐵鋼市場 3月14日迄の白耳義共販受註高は 22,000t で、此の調子で行けば3月中は約 60,000t 止りと推量されてゐる。

右の如く受註状態は甚だ芳しく無いが、メーカー等は工場を閉塞するとも公定相場を維持すべく態度を決定して居る様である。

各工場の操業率は非常に低く生産コストは高くなつて居る。

再壓延業者等は註文の缺乏に堪へかね、復又僅かではあるが値引をしてゐる。

ブラツセル市況 (3月14日)

銑鐵 製鋼用銑は日産 7,200t と評せられて居り、昨年3月の 9,700t に比し 2,500t の減産となつてゐるが、ストックは大量に昇てゐるものと見られてゐる。相場は不變。

半製品 英國よりの註文無き事が、痛切に感じられてゐる。

棒鋼 大口では無いが註文は公定相場で來て居る。埃及から C I Fアレキサンドリア 9-15-3、蘭領印度より C I Fバタビヤ 11-3-1、C I F マドラス 9-10-0 の如くで、リオデジヤネーロは 52 弗で買て居る。英領印度よりの註文が未だ現れて來ない。3月 14 日迄の受註高は 7,300t に達してゐる。再壓延業者等は 1志-1志 6片 (金) の値引を行つてゐる。

形鋼 14日迄の受註計は 1,600t。亞爾然丁より公定相場での註文があり、C I Fブエノスアイレス 9-8-7、C I Fモンテビデオ 9-10-0 であつた。カルカッタより C I F 8-7-6 で引合があつたが、大部分拒絶された。

帶鋼 相場は不明であるが、ホットロール物は平均 5-0-0 (金) FOB の様である。

國際冷壓帶鋼カルテルの規約は未調印であるが、原則的了解は完全に行はれた。

厚中板 智利より公定相場を 1磅下廻る C I Fバルパライソ 13-7-6 で引合があつたがメーカーは受けなかつた。蘭領印度よりは公定相場の C I Fハタビヤ 12-12-5 で註文があつた。和蘭市場に於ては、造船用鋼板に就きて米國アウトサイダーよりの競争が今尙行はれてゐる。14日迄の受註高は 4,000 餘t であつた。

黑板 受註高約 1,000t は甚だ不充分である。メーカー等は 10-15 志 (紙幣) の値引を行つてゐる。

亜鉛鍍板 一般的に値引は差控へてゐる様であるが、10-15 志引が平均の様である。然し大きな工場ではコスト高の爲値引を拒絶して居る。

線材 相場は 4'17-6-5'0'0 (金) であるが、大口の場合は 4'10'0-4'15'0 (金) で買へるだらうと云はれてゐる。

3月31日ルクセンブルグにて開かれたるカルテル理事會の経過は頗る良好にて、規約更改問題も案外早急に解決するであらうと見られてゐる。白耳義メーカー等も此の點を是認してゐるが、然し一部

には未だ釋然たり得ない向もある。

大陸鐵鋼界はカルテル改組の早急實現を望んで居り、特に佛紙の如きは、問題を行き惱ませてゐる白耳義メンバー等のクォータ増加要求は、大陸鐵鋼界の大局より見れば瑣々たる事柄であると述べてゐる。とは云へ白耳義メーカー等にとっては切實な問題である。

白耳義紙の論説に依れば、國內生産能力の3割から3割5分を有してゐるメーカー等は今尙ほ不滿の意を漏らしてゐると。同時にメーカー全體の意見は、現下の不況に對處する爲、特別制度としてのクォータをさへ望んでゐる。

カルテル當局よりの發表は無いが、白耳義のメンバー等が今回の會議に於て、最小限度のクォータ即ち最小限度の生産保證を要求したとの事は眞實であらう。此の保證が有れば、今後白耳義の諸工場も過去に見た如き急激なる減産の必要に迫られる事は無いであらう。

白耳義共販の見解は、國內市場よりの需要は極度に緊縮されて居るので、必然的に輸出が振興されねばならぬ。景氣が通常の場合でさへ生産高の7割5分が輸出に向けられてゐたのであるから、今後と雖も一定量の輸出は當然續けられねばならぬが、現行クォータにてはその最小限度でさへ不可能である。

白耳義鐵鋼市場 受註、生産共に好轉を見ず。

白耳義共販の受註高は28日迄の記帳であるが、僅かに47,000tとなつて居り、あと3日あるも2月と略々同數量の51,000t止りとならう。

輸出業者等は沈滞を啣て居り、賣上高の減少も目立て居る。

アントワープの船會社關係にて調べたる處に依れば、今年1~3月中の生産及輸出を次の如く推定してゐる。

	鋼塊生産高		銑鋼輸出高 (屑を除く)	
	1937	1938	1937	1938
各第14半期				
白耳義	864,000	550,000	915,000	690,000
ルクセンブルグ	633,000	370,000		
計	1,497,000	920,000		

上に依れば生産は昨年に比し3割8分減、輸出は2割5分減となつてゐる。

生産は過小評量の如くであるが、ルクセンブルグの2月中生産高は戦後の最低110,000t(1937年平均月産209,000t不況時の1932年でさへ163,000t)であつた事よりして、妥當と見て良いであらう。

海外市場の中スカンデナヴィヤ諸國特に瑞典、諾威への積出は次に示す如く激減してゐる。

1~3月中典、諸への輸出(單位噸)

	1937年		1938年	
	1937年	1938年	1937年	1938年
棒、山	23,670	8,000	鋼板	11,506
形鋼	16,138	8,700		
計				

極東方への輸出減は約70,000t、南米向は4~5割減と見られてゐるが、他方米國南阿、蘭領印度方面は稍々満足すべき状態である。

内外の市況が好轉するかどうか、次の諸問題の方向に従て左右されるのであらう。即ち緊張せる國際政局の緩和、大陸鐵鋼カルテルの改組、米國鐵鋼界の回復、最後に、極東平和の實現等である。

斯くする中海外よりの引合は徐々に増加してゐるが、カルテルの公定價格は平靜に維持されて居り、白耳義再壓延業者等でさへ從前の1志~1志6片引を止めてゐる。

米國アウトサイダーの跳梁も過般ロンドンに設置された大陸、英米統制本部の活動に依り多少制限されるであらうと期待されてゐる。

ブラツセル市況(3月31日)

銑鐵 最近の銑鐵日産は7,000tと評せられてゐるが、消化は少く之等の大量はストックに廻されてゐる。國內市場に於る鑄物用

3號銑の公定相場は昨秋790白耳義法であつたが、現在は600法である。輸出相場は鑄物、製鋼共3'10"0-3'12"6 FOB、ヘマタイト740-750白耳義法 FOB アントワープである。

半製品 28日迄に11,000tの受註を見たのみである。

成品 シンデケート成品の受註36,000tの中58%が國內向となつてゐるので輸出向は極減の15,000tとなつてゐる。

棒、山 再壓延業者等は値引を全々止めて居り、南米からの註文は凡て公定相場で受けられて居る。

三番アイアンバー 1週間前に註文無き爲相場は俄かに崩れ、700-750から6-10-0に落ちたのであるが、今週も弱く600-650 FOBである。

形鋼 數量は僅かであつたがCIF香港9-12-4で註文が來た其他南米にも公定相場で賣られた。28日迄の受註は4,200tである。

帶鋼 商内少く、ホットロール物は先週5-0-0(金)であつたが、現在は4'16"0-4'17"6(金)FOBとなつてゐる。チューブストリップの相場は4'12"6-4'15"0(金)である。

厚中板 ユニバーサル鋼板を合せて受註計14,000tとなつてゐる。公定相場は維持されてゐるが、造船用鋼板に就きては、引續き米國アウトサイダーとの競争が行はれてゐる。

黒板 28日迄の受註高は2,500tで、メーカー等の作業率は25~28%を支へ得るのみである。然しながら値引は平均5志(紙幣)に止まつてゐる。

亞鉛鍍板 相場は先週頃より弱く10~20志(紙幣)の値引が一般的となつてゐる。

白耳義商況 最近の白耳義鐵鋼市場は過去2,3週間前の沈滞とは稍々趣きを異にしてゐるが、未だ好轉して居るとは言ひ切れない。

メーカー等は白耳義共販の改組が決定を見る迄は、大陸鐵鋼カルテルの規約更改も行き悩むものである事を承知してゐる。然し白耳義共販もカルテルへのクォータ増加要求が諾れられなければ、夫れ自身の改組に困難を感じるものであり、亦共販内の2,3會員等は高率の割當を要求してゐる等二重の問題で煩はされてゐる。

傳へられてゐる所に依れば、カルテルの理事會は白耳義メンバー等の要求、即ち不況時に於る最小限度の生産保證を原則的に認め他國のメンバー等も承認の意嚮を有してゐるとの事である。

勿論其處へ行く迄には諸種の折衝が行はれるであらうから、結局の所カルテルの規約更改も多少遷延を餘議無くされるであらう。

然しながら此の問題の爲白耳義メーカー等は不利益を蒙るが如き事は無く、寧ろメーカー等の間に存在する困難の除去を多少とも容易ならしめる事とならう。事實或程度 of 了解は最早出來たとも云はれて居り、全問題の解結も來月中には片着くものと見られてゐる。いづれにしても白耳義メーカー等は確信有り氣に落ち着きを見せてゐる。

商勢を見るに、シンデケート全品種に亘て價格は平穩で、受註も確かに革まりつゝある。

白耳義共販の受註高は、4月は5日迄で13,000tとなつて居り、此の割合で行けば全月は80,000t臺とならう。

3月中受註高は50,200tで、過去の最低受註であつた2月より尙1,000tの減となつてゐる。

白耳義共販受註高

1937年12月	84,600t	1938年2月	51,200t
1938年1月	98,000t	1938年3月	50,200t

其他市況良化の兆とも見らるべきものに輸出向があり、3月中は受註高の39.5%であつたが、4月は50%に昇るものと見られて

る。

ブラッセル市況 (4月7日)

銑鐵輸出需要が可成り増加して來たので、相場も先週頃より強く、鑄物用3號銑 3'15'0-3'16'0 FOB, ヘマタイト 850-860 白耳義法 FOB アウトワープとなつてゐる。鐵鋼界の衰時も過ぎ去り、需要も擡頭しつゝあるとの買手意見の様である。

棒、山 買氣は徐々に現はれてゐる。スカンデナビヤ諸國及埃及より相當の注文があつた。極東方面よりの需要は増加して居り、和蘭よりも主としてコンクリート用丸の引合が多い。再壓延業者等も公定相場を維持してゐる。

3番アイアンバー 相場は弱く、先週は 6'2'6-6'7'6 片であつたが昨今は 6'0'0-6'5'0 FOB である。

形鋼 4月5日迄に約 1,400t の受注を見たが、瑞典からの注文が大部分であつた。

帶鋼 依然たる弱勢で、先週 4'16'0-4'17'0 であつた相場も今週は 4'12'6-4'15'0 (金) となつてゐるが、纏まつた數量に對しては 4-10-0 (金) FOB で出来るであらう。

コールドロール物の相場は不明である。

チューブストリップは先週 4'12'6-4'15'0 であつたが、今週は復弱く 4-10-0 (金) である。

厚中板 日本から造船用鋼板約 4,000t の引合があつたが、注文は米國のアウトサイダーへ行つた様である。歐洲市場に於ても此の競争は今尙跡を斷たない。然しながら價格は平靜である。

黒板 シンヂケートのメーカー等は5志の値引に止めてゐるが再壓延業者等は注文の寸法にも依るが 10-20 志の値引を行つてゐる。

亜鉛鍍板 一般の値引は依然 10-20 志であるが、上級品を出してゐる工場では大口注文に對してきへ値引を拒んでゐる。

練製品 季節的需要が弗々出て來て居り、可成りの注文が在る様である。

ブラッセル通信

4月1日發信 市況は不相變買手の總控へのため閑散にして、米國の競争も國內需要の増加と共に最近は殆ど話題に上らず相場の保合を續け居り、目下は一に來夏のカルテル更改に關する準備に追はれ居る有様に御座候。3月中の Cosibel 入註 (1日より29日迄) 49,000t (内 29,500t 内地向, 19,500t 輸出向) 鐵鋼業調停委員會は作業時間並に最低賃銀率に關し次の通り要求案を提出致し候。

1. 爐作業従事工は土曜日午後10時より日曜に午前6時迄作業中止のこと。而して、3週目に日曜日全休を保證すること。
2. 物價指數 800 を基礎として最低賃銀 45 法に制定のこと。
3. 45 法最低賃銀率を基礎として賃銀率果進引上のこと。
4. 60 歳停年, 6,000 法年金恩給金庫設定のこと。

今回の獨逸、埃太利併合は經濟上の利益より見て埃太利鐵礦脈の富源は重大なる意義あり其埋藏量は 200,000,000t と稱し(鐵分 30%) 埃太利鐵鋼現産量は昨年度 1,800,000t なれども今後獨逸の經營に移り能率増進に3倍程度迄の産額を見るならんと云はれ居候。

紐育通信

註 本社紐育駐在員藤澤勇次氏より米國鐵鋼情況に關し爾今隨時報告せらるゝ事となりたるにつき之を紐育通信として掲載する事とした。

昭和13年3月24日發信 3月中に於る米國製鋼作業率の足取を見るに

2月28日發表	29.3%	3月14日發表	32.1%
3月7日發表	29.9%	3月21日發表	33.7%

即ち月初以來 4.4% の上昇を示したるが之を地方別に見るに次の如し。

	3月21日	3月14日		3月21日	3月14日
Pittsburg	30.0%	29.0%	Detroit	33.0%	33.0%
Chicago	31.5%	30.0%	Southern	45.0%	45.0%
Valleys	31.0%	29.0%	S. Ohio River	23.0%	23.0%
Philadelphia	29.0%	29.0%	Western	30.0%	30.0%
Cleveland	26.0%	26.0%	St. Louis	37.0%	40.5%
Wheeling	61.0%	57.0%	Eastern	50.0%	50.0%
Buffalo	27.0%	19.5%	Average	34.0%	32.0%

上記作業率の上昇の原因は次の3點に歸する事を得べし。
I. 農業關係の問屋筋より買氣旺盛となりたる事、殊に柵用ワイ

ヤーに著しく又建築用材並に薄板及スタンダードパイプの需用も幾分ながら増加したる事にして是は主として季節的繁忙期に入りたる結果に外ならず。

2. 一般に問屋筋のストック多少減少したること。
3. 一方生産者側としては鋼塊並に半製品のストック手持薄となりたること。

一方銑鐵及鋼材の輸出狀況を見るに本日發表せられたる米國商工省の統計によれば本年2月中に於て銑鐵及鋼材の輸出は昨年2月に比し數量に於て 46%, 價格に於て 28.5% の増加を示し居れども之れを本年の1月中輸出高に比するときは數量に於て 11.3% 價格に於て 15.5% の低下を示せり。即ち次の如し。

米國銑鐵鋼材輸出高

1月	229,757t	14,957,542 弗
2月	203,850	12,643,856
昨年2月	139,714	9,734,132

因に上記の内本年2月中の日本向製品は次の通り商工省より發表せられたり。

銑鐵	27,107t	鋼塊	10,194t
----	---------	----	---------

而して製鋼業者に於ては此處暫らくは生産量及積出量は相當増加すべしとは期待し居るも、之を以て一般的に消費量増加の傾向にありとは認め居らざるもの如くなり。即ち鐵道業者及自動車工業による需要の恢復も期待致難く自然現狀は相當長期に互るにあらざるかとの觀測を下すもの多し、從て製鋼業者としては作業率昨今多少上昇したりとは申しながら、尙 34% 臺にある不況を續け居れども、従業員の整理若くは賃銀の引下等の手段に出づるが如き方策は考へ居らざるもの如く、之れを要するに現狀の維持の儘に暫らく成行を靜觀するの態度に出でつつあり。參考迄に最近に於る建築用鋼材の生産狀況を示せば次の如し。

Production of Construction Steel
Week ended

	March 22 1938	March 15 1938	Feb 21 1938	March 23 1937
Fabricated structural steel awards	13,900	13,800	12,770	18,900
Fabricated plate awards	575	2,050	2,675	2,670
Steel sheet piling awards	2,500	625	210	0
Rein forcing bar awards	6,600	2,400	8,375	2,120
Total Constructions steel	23,575	18,875	24,030	23,690

4月1日發信 市況は大體變りなきもボツボツ入註あり、今週アルゼンチンより鋼板 40,000t 蘇聯より薄板 5,000t の引合有之候。

カルテル更改準備委員會は屢々會合を見 3月31日のルクセムブルグの委員會にて發起委員たる佛蘭西、ルクセムブルグ並に獨逸代表の意見は割當量其他條件は現狀の儘にて繼續することに一致を見たる由に候尙決定迄には幾多の議論曲折あることに存候。

3月中白耳義製鋼量 165,000t (2月中 172,000t-昨年3月中 302,200t) にして近年になき少量を示し申候。

東京大阪鐵鋼市況

來るべき變革に臨む覺悟は練れてゐる。如何にして實際的に執務し、整理するかを弗々研究してゐる向もある。

口に「愈々轉業だ」とコボしながら夫々のグループに戻り、本心に還へれば、所屬商組の有利なる展開を希ひ、自己主張を忘れずして既に移行を受け入れてゐる。

充分覺悟は出來てゐるし、又何ういふ立場に置かれるかと云ふ事も大體見透してゐるので、先物の賣買は無く、現物手當の賣買に終始して、商内の不振、氣配の沈滯は免れず、尙ほ極端なる供給難物或は又無表情、無感覺に過ぎる物は別とするも概して高値に過ぎた物は漸次値傾を引下げ、下げ過ぎた物は更に自ら崩さず底を入れ等夫々よく事情を呑み込み、材料を折込んで慌てた處が無く、冷靜、穩健に推移してゐる。

尤も、稍々從來の商賣道に於る最後の一戰、昔懐しい鐵商賣を送るの一戰となしつゝある觀が無いではないが、それとても決して惡足掻きをするのではない。

血を見ずして維新への道を辿りつゝありと云ふべきか。

鳴けず、飛べずの時である。

積極的の荷動きがある筈が無く、商賣に活気が有る筈が無い。
 尤も需要家の中には豫定通りの統制策が實行せらるゝに到れば、
 手當てに一層の不自由を來すと見て多少買ひに出る向が有り、所謂
 公定相場以下に落込んだ物は下値淺く、むしろ適當の水準にまで引
 上げられると見て、買ふべき物は見送らずに手當てする向も有る。
 一方問屋の中にも上放れ過ぎてゐる物は今にして換金爲すを賢名
 なりとして、賣抜けに出る店が無いではない。
 然し大勢は少い物を實需に對して慎重に處分し、當用の手當に止
 められるだけ止めて形勢を觀望せんとする氣配が支配的で、市場は
 引續き閑散、低調に推移してゐる。
 尙ほ相場は、高物價は聲を大にして其の抑制が叫ばれてゐる一方
 供給難、品薄に依る下支へが有り、旁々原價の据置や所謂公定相場
 又は公定口銭制が暗示するが如く、一定の水準を保つを以て良しと
 せんとする氣運も有るのでそれ等が錯綜して、且復市場に積極性が
 無いので銳角的にはなく、高きに過ぎる物は訂正安を續け、品拂
 底で如何とも致し難き物は保合ひ、安きに過ぎた物は小戻りを示す
 等の動きを示してゐる。
 【下旬】 永らく馴染んだ習慣、持て生れた本性は根強い。一朝一
 夕に脱けられるものではなく、變へられるものではない。
 鋼材市場は生れながらにして、需要供給の如何、思惑の有無、金
 融の關係等に由るは元より其他諸種の刺戟に由て一張一弛を繰り返
 へし、長く静せぬ生活を續けて來た。それが殆ど天性に近いもの
 となつてゐる。

本性を殺し切て、其の動きを大いに抑制せねばならぬのはむづか
 しい事である。多少共從來の儘に行動する餘地が残されてゐる今
 日、市場がおいそれと完全に變質なし得ぬのは復已むを得ない。野
 性が血を呼び、林野に馳せ入るを如何とも致し難い。
 市場は身を殺し、最善の努力を拂て今日に順應せんとしてゐるの
 で從來の動きとは既に大いに異てゐる。尙ほ好むと好まざるに拘
 らず、近く變態化身せざるを得ぬ運命に置かれてゐるので何れは今
 日理想とせられてゐるものに近い市場となつて更生するのである
 が、今日直ちに理想の具現を見やうとするのは無理である。
 勿論東京市場は深く事態を認識してゐる。求められてゐる處に燃
 け込むべく跪いてゐて、決して從來の環境に手放しに執着してはを
 らない。が然し血に誘はれて、許されてゐる範圍に於て、少い物、
 買はれる物、目先見込みの有る物等は突張り、多い物、賣れぬ物、
 不安を感じる物等は賣應じ、上、下に行き過ぎてゐる物は訂正する
 等の蠢動は之を如何とも致し難い。本能の最少限度の發露は今日に
 於ては未だ避け難いやうである。
 尤も所謂切符制度の實施が延びたので多少心氣に弛緩を來し、狎
 れたと云ふ事が反撥を助長した觀が無いではないが、結局は今日の
 市場は大いに自肅、自戒し、努めて善處しつゝあつて、僅に残る血
 の叫びに引摺られて動く範圍を出てはをらないのである。
 上、下共に放れる事は許されぬ時なので今日程度を遠く離れぬが
 然し完全統制の實施までは小往來を示しつゝ推移すると見られてゐ
 る。

東京大阪鐵鋼市中相場

	上旬 (東京 4月8日 / 大阪 4月7日)		中旬 (東京 4月18日 / 大阪 4月18日)		下旬 (東京 4月28日 / 大阪 4月28日)	
	東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪
	丸鋼		薄形鋼		工形鋼	
6mm	22.50	23.00	22.50	23.50	22.80	23.50
9	22.00	21.20	21.80	21.50	22.20	21.30
12	22.20	22.50	22.20	22.80	22.70	23.00
19	20.50	20.00	21.00	21.00	21.50	20.50
25	"	"	"	20.30	"	"
50	28.00	28.00	28.00	28.00	28.00	28.00
65	30.00	29.00	30.00	29.00	30.00	29.00
130	36.00	30.00	36.00	30.00	36.00	30.00
150	38.00	"	38.00	"	38.00	"
200	"	"	"	"	"	"
角鋼						
9mm	24.00	24.00	24.00	24.30	24.20	24.30
12	"	24.50	"	24.60	"	24.50
16	23.50	21.50	23.50	21.70	"	20.80
19	"	30.00	23.00	21.30	23.50	"
58	28.00	"	28.30	26.50	28.30	26.50
50	29.50	"	30.00	30.00	30.00	29.00
65	30.00	"	"	"	"	32.00
100	"	"	"	"	"	"
平鋼						
mm mm	24.00	24.00	24.00	24.10	24.30	24.00
3x25	21.30	22.80	21.30	22.90	21.70	22.80
6x25	22.00	23.00	22.00	23.00	22.50	"
6x38	20.50	22.50	20.80	22.50	21.30	22.00
6x50	"	"	"	22.40	"	"
6x75	24.50	23.00	24.50	23.00	24.70	23.00
9x100	"	22.80	"	"	"	"
12x100	"	"	"	"	"	"
等邊山形鋼						
mm mm mm	32.00	33.00	32.00	32.50	32.00	32.50
3x25x25	31.00	30.00	31.00	30.50	31.00	30.50
5x40x40	23.50	23.00	24.00	22.00	24.00	22.50
6x45x45	20.50	21.00	20.50	21.50	20.80	21.50
6x50x50	"	20.70	"	21.00	"	21.20
6x65x65	19.50	19.70	19.70	19.80	20.00	20.00
9x75x75	"	"	"	"	"	"
9x130x130	23.00	23.50	22.50	23.00	22.50	23.50
12x130x130	"	"	"	"	"	"
15x150x150	"	"	"	"	"	"
不等邊山形鋼						
mm mm mm	23.50	23.50	23.00	24.00	23.00	23.00
9x50x75	21.00	22.00	21.00	21.50	21.30	21.80
10x75x100	"	"	"	"	"	"
10x90x125	"	"	"	"	"	"
9x100x150	23.50	23.50	23.00	23.00	23.00	24.00
12x100x150	"	"	"	"	"	"
薄鋼板 (13枚)						
川崎	'94	'92	'94	'94	'95	'95
八幡	"	"	"	"	"	"
ブリキ						
英	{170lbs 39.00	40.50	39.00	40.00	38.50	40.00
	{200 40.00	41.70	40.00	41.20	39.50	41.20
米	{170 38.50	41.00	38.50	41.00	38.00	41.30
	{200 39.50	41.50	39.50	41.30	39.00	37.00
八幡	{170 38.50	38.00	38.50	37.00	38.00	36.50
	{200 39.50	39.00	39.50	38.00	38.50	37.50
W.W	200薄口	"	39.00	39.00	"	"
線材						
B.W.G. #5	203.00	210.00	205.00	230.00	205.00	230.00

備考 單位 100kg につき (置場値段)、但し薄板は1枚當り。線材はt當り。ブリキは1函當り。

昭和13年4月中發表各種先物建値表

所屬別	區分 種類	建値月日	積 月				備 考
			4,5月積	6,7月積	5月積		
棒鋼 共販	小形 丸角平	4-22		185			据 置 // // //
		"		200			
	中形 丸角平	"		200			
		"		210			
形鋼 共販	小形山形鋼	4-23		195			据 置 // // // //
	中形山形鋼	"		190			
	大形山形鋼	"		200			
		"		200			
	大形溝形鋼	"		205			
大形工形鋼	"		210				
鋼板 共販	耳付 小形	4-23				185	据 置 // // // // // // // // //
		"				190	
		"				190	
		"				—	
	大形	"				195	
		"				200	
	定尺	"				—	
		"				215	
		"				220	
		"				225	
線材 共販	5.5mm	4-22		190			据 置 // // // // // // // // //
	6mm	"		188			
	炭素鋼	"		220			
		"		245			
	硬鋼	"		230			
		"		240			
	電信線	"		260			
		"		250			
	電含鎧	"		230			
		"		220			
帶鋼 共販	0.9~1mm	4-13	285				据 置 //
		"	275				
		"	260				
		"	270				
		"	280				
		"	265				
	1.1~1.3mm	"	255				
		"	250				
		"	122~150				
		"	151~160				
		"	260				
		"	270				
	1.4~2mm	"	255				
		"	255				
		"	250				
		"	245				
		"	250				
		"	255				
	2.1~2.5mm	"	255				
		"	250				
		"	245				
		"	250				
		"	250				
		"	255				
2.6~3mm	"	255					
	"	250					
	"	240					
	"	245					
	"	250					
	"	250					
半製品 共販	塊片 ムブ ー	4-12			150	据 置 // // // //	
		"			165		
		"			165		
		"			170		
		"			187		

共 販 指 定 販 賣 人 及 特 定 指 定 販 賣 關 係 一 覽 表 (昭和13年4月24日現在)

附 指 定 問 屋

帶 鋼 共 同 販 賣 組 合	指 定 販 賣 人	特 定 指 定 販 賣 關 係 (○印は特定關係を示す)										指 定 問 屋		
		指定販賣人 組會員	三井	三菱	岩井	安宅	日鋼	日商	高島屋	淺野	野			
鋼 共 同 販 賣 組 合	三井物産株式會社											○東京の部 入丸川 岩日獨 日大阪を 勝本 ○大阪の 入部 西山 堀孫 千井 小倉(千) 小倉(商) 渡邊 田中 岡屋の部 岡東大谷 京阪を 含む	内梅松紀湯 津 中九松小北 加 納	田岡本繁淺 田 西鬼本島島 東 京を 含む
	三菱商事株式會社	日本製鐵	○		○	○	○	○	○					
	株式會社岩井商店													
	株式會社安宅商會													
	日本鋼材株式會社	日本亞鉛鍍鋼業	○	○		○	○	○	○					
	日商株式會社													
	高島屋飯田株式會社	徳山鐵板		○	○		○		○					
	淺野物産株式會社													

鋼 塊 組 合 の 概 容 一 覽 表 (昭和13年4月14日現在)

名稱	加 盟 員	統制品種	設立期	存續期間	組 織 及 運 用
鋼 塊 組 合	日本製鐵株式會社	鋼 塊 (粗鋼) 全 部	昭 和 13 年 3 月 8 日	昭 和 15 年 9 月 30 日 迄	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組合は日本鋼材聯合會の統轄下に屬し其の規約並に委員會の決議に従ふ義務あり。 2. 鋼塊(粗鋼)の需要調整を目的とし目的達成の爲に次の事業を行ふ。 イ 組會員の製造すべき鋼塊の總生産高の決定。 ロ 各組會員の生産割當の決定。 ハ 其の他組合の目的を達成するに必要な事項。 ニ 平爐法、轉爐法、電氣爐法等製法の如何を問はず製造鋼塊の全部を統制す。但し特別の事由あるものに就ては總會の決議に依り統制より除外す。(5月、11月の定時理事會を以て總會と稱す) 3. 原則として每期(第1期自4月1日至6月末日、第2期自7月1日至9月末日、第3期自10月1日至12月末日、第4期自翌年1月1日至3月末日)1回理事會を開き日本鋼材聯合會の方針に従ひ組合の運用に必要な一切の事項を議決す。 ロ 理事會は各組會員より推薦したる理事を以て組織す。 4. 原則として毎月1回常務理事會を開き日常業務を處理す。 ロ 常務理事會は理事中より互選せられたる若干名の理事を以て組織す。 5. 原則として各組會員は割當られたる數量を生産すべきものとす ロ 已むる得ざる事由ある場合組合の承認を得たる時は割當量を變更する事を得。 ハ 期間中に於て總生産高及割當量を變更する必要を認めたる場合は遲滞なく臨時理事會を開催し其の變更決定をなす事を要す。 ニ 割當量の生産實行不能を豫知し其の全部又は一部を一定期間に限り他組會員に移譲せんとする場合は當該期間の開始月の末日迄に移譲及被移譲組會員の連名を以て常務理事會へ通知することを要す。 ホ 原則として割當量に對し生産高が過不足を生じたる場合は超過又は不足數量に對し一定額の違約金を支拂ふものとす。組合の清算は3ヶ月を以て1期とし過不足20%以内の場合は之を次期に於て加減する事及期末決算終了前に常務理事會に通知する事に依り罰金を免る。 7. 製品を販賣せんとする場合は總て半製品共販の統制に従ふものとす 事務所 東京市丸の内 郵船ビル内
	日本鋼管株式會社				
	日本亞鉛鍍鋼業株式會社				
	大阪製鋼株式會社				
	大阪製鐵株式會社				
	株式會社川崎造船所				
	鶴見製鐵造船株式會社				
	株式會社中山製鋼所				
	大和製鋼株式會社				
	株式會社神戸製鋼所				
	小倉製鋼株式會社				
	株式會社吾孺製鋼所				
	株式會社尼崎製鋼所				
株式會社宮製鋼所					
住友金屬工業株式會社					